

IL VULCANO

日記資料 作家一覧

15/11/06

1901/1/23-	日	文学	夏目漱石 ロンドン留学日記
1902・5/5	日	歌人	正岡子規 : 病床六尺
1907	日	作家	内田百閒
1909・4/10-4/21	日	文学	石川啄木 ROMAZI NIKKI
1912	オーストリア	画家	エゴン・シーレ 獄中日記/戦中日記
1919/2/27	ロシア	舞踊	ニジンスキー ノート
1920	ロシア		S.I. ヴィトケヴィッチ 幻覚剤ペイヨーテの効果に関する報告
1920-1922	独	演劇	ブレヒト青春日記
1929		文学	ジュリアン・グリーン
1931	日	精科	森田正馬
1930-38	日	患者	小便患者
1928/1-	日	患者	不潔恐怖症患者
1932	仏	民学	ミシェル・レリス
1932/5	仏	文学	サンテグ・ジュペリ
1933		冒険	ヘディン : ゴビ砂漠の南西部のエツイン・ゴルの河畔の休日
1933/2--	日	映画	小津安二郎
1933-39	独	劇作	ハイナーミュラー
1935・10/15	日	物理	寺田寅彦 無題: 死刑囚の身体
1937/2/7	日	芸人	古川ロッパ
1939/8/25	日	物理	湯川秀樹
1939			
1939-1941	仏	作家	ボーヴォワール 戦中日記
1942	日	一般	佐々木光子: 母の戦時中の日記—サイパン玉砕のニュース/強風
1942-1944	独	少女	アンネ・フランク
1943-44	オ	医者	E.E. ダンロップ
1944/6	日	皇族	高松宮
1945/3/11-	日	精神科	神谷美恵子(28才の頃)
1945・2/27	独	作家	ケストナー 終戦日記
1945	日	一般	中根美宝子
1945・12	()	記者	マーク・ゲイン ニッポン日記
1945	日	一般	『戦場に残された日記』勝見明
1945/8/15-	日		大佛次郎
1945・8/15	日		中根美宝子「学童疎開」(ミ)
1945-1946	日	企業家	笹川良一『巣鴨日記』: 元大臣たち、卑しきものばかり (オ)
1958/2/20-23	日	作家	坂口三千代&坂口安吾 クラクラ日記
1954・4/1	日本		山下清「花火」
1954・5/9		作家	グレアム・グリーン ヴェトナム日記/コンゴ日記

1956	日	政治家	佐藤栄作
1958・5	日	作家	永井荷風 断腸亭日乗
1958/8/2	仏	作家	カミュ
1962・5/28	日	冒険家	堀江謙一 : 太平洋ひとりぼっち (サ)
1964・8/7・9/20	日		武田百合子
1965	米	画家	『ジャスパー・ジョーンズ』 (ヒ)
1965	スイス	画家	ジャコモッティ
1968・6/19	日	活動家	高野悦子
	日		千葉敦子
1978	()	作家	ブゴウスキー
1978・4/28-6/7	日	冒険家	植村直巳 : 北極点グリーンランド単独行
1982	日		宮内美沙子
1982/7/6-7/9			ペーターノル
1987	日	役者	マキの東京絵日記』
1987	日	学者	『マチョ・イネのアフリカ日記』 西江雅之
1987-8	日	音楽	ドリアン助川
1991/5/6			平出隆
1992/6/23-6/24	サエホ ^ホ	少女	ズラータ サエホ ^ホ
1992	モスクワ	翻訳家	『ミステリー・モスクワ ガーリヤの日記』: 国家崩壊の中、普通の人々の実験的生活
1993	日	一般	育児日記
1994	仏	作家	M.デュラス これでおしまい
1998-1999	日	一般	オープン・ダイアリー
1998	日	映画	「We are Transgenders〜性別を越え、自分らしく生きる!」・制作日記
1998	日	一般	インターネット



●夏目漱石(1867-1916) 小説家・英文学者。本名金之助。江戸，牛込生まれ。東大卒。森鷗外と並ぶ近代文学の巨匠。朝日新聞に作品を次々に発表。俳句・漢詩・書画をもよくした。著「吾輩は猫である」「坊っちゃん」「草枕」「三四郎」「それから」「門」「こゝろ」「彼岸過迄」「道草」「明暗」など。

●正岡子規(1867-1902) 俳人・歌人。別号，獺祭(だつさい) 書屋主人・竹の里人など。愛媛県松山生まれ。新聞「日本」・俳誌「ホトトギス」によって写生による新しい俳句を指導，「歌よみに与ふる書」を著して万葉調を重んじ，根岸短歌会を興す。また写生文による文章革新を試みる。著「竹の里歌」「俳諧大要」「仰臥漫録」など。

●石川啄木(1886-1912) 歌人・詩人。岩手県生まれ。本名，一(はじめ)。貧困と孤独にさいなまれながら明治末の「時代閉塞」に鋭く感応し，社会主義的傾向へ進むが，肺結核で夭折(ようせつ)。歌集「一握の砂」「悲しき玩具」，詩集「呼子と口笛」，評論「時代閉塞の現状」など。

- ニジンスキー【Vatslav Nizhinskii】(1890-1950) ロシアの舞踊家・振り付け師。天才的舞踊により人気を博した
- レリス【Michel Leiris】(1901-1990) フランスの作家・民族学者。シュールレアリスム運動に参加。著「幻のアフリカ」「成熟の年齢」「ゲームの規則」など。
- シーレ【Egon Schiele】(1890-1918) オーストリアの画家。病的な官能性を帯びた容赦のない裸体表現で、人間存在の不安を描く。
- ジャコメッティ【Alberto Giacometti】(1901-1966) スイスの彫刻家・画家。シュールレアリスムの代表的彫刻家。現代彫刻に強い影響を与えた。
- デュラス【Marguerite Duras】(1914-1996) フランスの女性作家・映画作家。サイゴン生まれ。愛・生・孤独といった主題を簡潔かつ抽象的な手法で描く。小説「モデラート-カンタービレ」「愛人」、映画「インディア-ソング」「トラック」など。
- 湯川秀樹(1907-1981) 理論物理学者。東京生まれ。京大教授。新粒子(中間子)の存在を予言、中間子場の理論を展開。1949年日本人として初めてノーベル賞(物理学)を受賞。その後非局所場の理論を、またそれを発展させた素領域の理論を提唱。終生、核兵器の廃絶を訴えた。
- 佐藤栄作(1901-1975) 政治家。山口県生まれ。東大卒。1964年(昭和39)から72年まで首相の座にあり、高度経済成長政策、日米安保条約自動延長、沖縄返還などの政策を推進した。74年(昭和49)ノーベル平和賞を受賞。
- 小津安二郎(1903-1963) 映画監督。東京生まれ。サイレント作品「東京の合唱」「生まれてはみたけれど」「浮草物語」、トーキー作品「一人息子」「父ありき」を発表。戦後「晩春」「麦秋」「東京物語」で都会人のライフスタイルを端正に描く。
- 寺田寅彦(1878-1935) 物理学者・随筆家。東京生まれ。筆名は吉村冬彦・藪柑子(やぶこうじ)など。東大教授。物理学・地球物理学・地震学・気象学・海洋学などの研究に従事するかたわら、夏目漱石に師事し「団栗」「竜舌蘭」など写生文や小品に新生面をひらいた。
- ケストナー【Erich Kastner】(1899-1974) ドイツの詩人・小説家。風刺的な小説「ファビアン」や、機知とユーモアに富む少年小説「エミールと探偵たち」などを書いた。
- 永井荷風(1879-1959) 小説家。本名、壮吉。別号、断腸亭主人。東京、小石川生まれ。フランスから帰国後江戸趣味へ傾斜、終生反俗的な文明批評家としての姿勢を貫いた。著「あめりか物語」「ふらんす物語」「腕くらべ」「口東綺譚」、日記「断腸亭日乗」
- カミュ【Albert Camus】(1913-1960) フランスの小説家・劇作家・批評家。不条理の哲学から出発、政治における暴力を否定しヒューマニズムを追求。小説「異邦人」「ペスト」、戯曲「カリギュラ」、評論「シジフォスの神話」「反抗的人間」など。●ポーボーアール【Simon de Beauvoir】(1908-86)
- 高松宮宣仁(1905-87) 大正天皇第三皇子。少年期は光宮(てるのみや)。太平洋戦争末期、国体護持による和平工作に尽力、細川護貞の収集した情報を天皇に伝える役割を果たした。戦後は国際文化振興会総裁など。
- 内田百けん(1889-1971)
- ジュリアン・グリーン【Julien Green】(1900-) フランス 小説家。異色の幻想的な作家。霊、肉の相克と信仰の苦悶、それが日記12巻に貫通する主題である。
- グレアム・グリーン【Graham Green】(1904-91) イギリス 小説家。現代の政治的動乱の中心地を舞台に、世俗的倫理と宗教的倫理の鋭い対立を描き、現代で最も注目されるカトリック作家の一人となる。50年代以降、独自の皮肉でペシミスティックな人間観を核にした作品。